

浜松市デジタル・スマートシティ構想

【解説版】



現状と課題

人口減少・少子高齢化

インフラ老朽化

気候危機・自然災害の
激甚化

COVID-19



- 従来の方法や体制では解決が困難な状況
- まちづくりや都市経営に新たな視点や変革が求められている

デジタル活用による課題解決への期待の高まり

先端技術や様々なデータを活用し、官民連携で地域課題の解決や産業の活性化など、よりよい暮らしの実現を目指す「デジタル・スマートシティ」への期待が国際的に高まっている。

浜松市
デジタル
ファースト宣言
(2019年10月)

「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言。
「デジタル・スマートシティ」の取組を開始。

国の政策動向やまちづくりの潮流

「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備

デジタルニューディール

次世代型行政サービスの
強力な推進DX (デジタル・トランスフォー
メーション) ※の推進

※DX (デジタル・トランスフォーメーション) :
データとデジタル技術を活用して、組織や仕組み等を抜本的に変革すること。

新しい働き方・暮らし方

変化を加速するための
制度・慣行の見直し

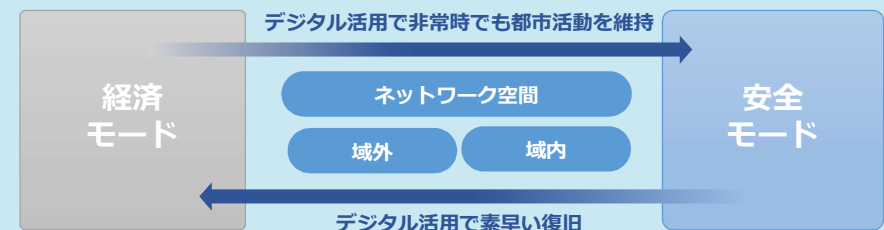
「新たな日常」が実現される地方創生 多核連携型の国づくり、地域の活性化

東京一極集中型から
多核連携型の国づくりへ地域の躍動に繋がる
産業・社会の活性化

- スマートシティの社会実装を加速化
- データ・情報共有によるサプライチェーン (供給網) 全体の効率化
- 二地域居住、兼業・副業支援強化
- オープンイノベーションプラットフォーム※の構築

(出所) 内閣府 経済財政運営と改革の基本方針2020 ※オープンイノベーションプラットフォーム：オープンイノベーション (後述) を促進するための環境

COVID-19/災害激甚化に対応する持続可能な社会 デュアルモード社会の構築



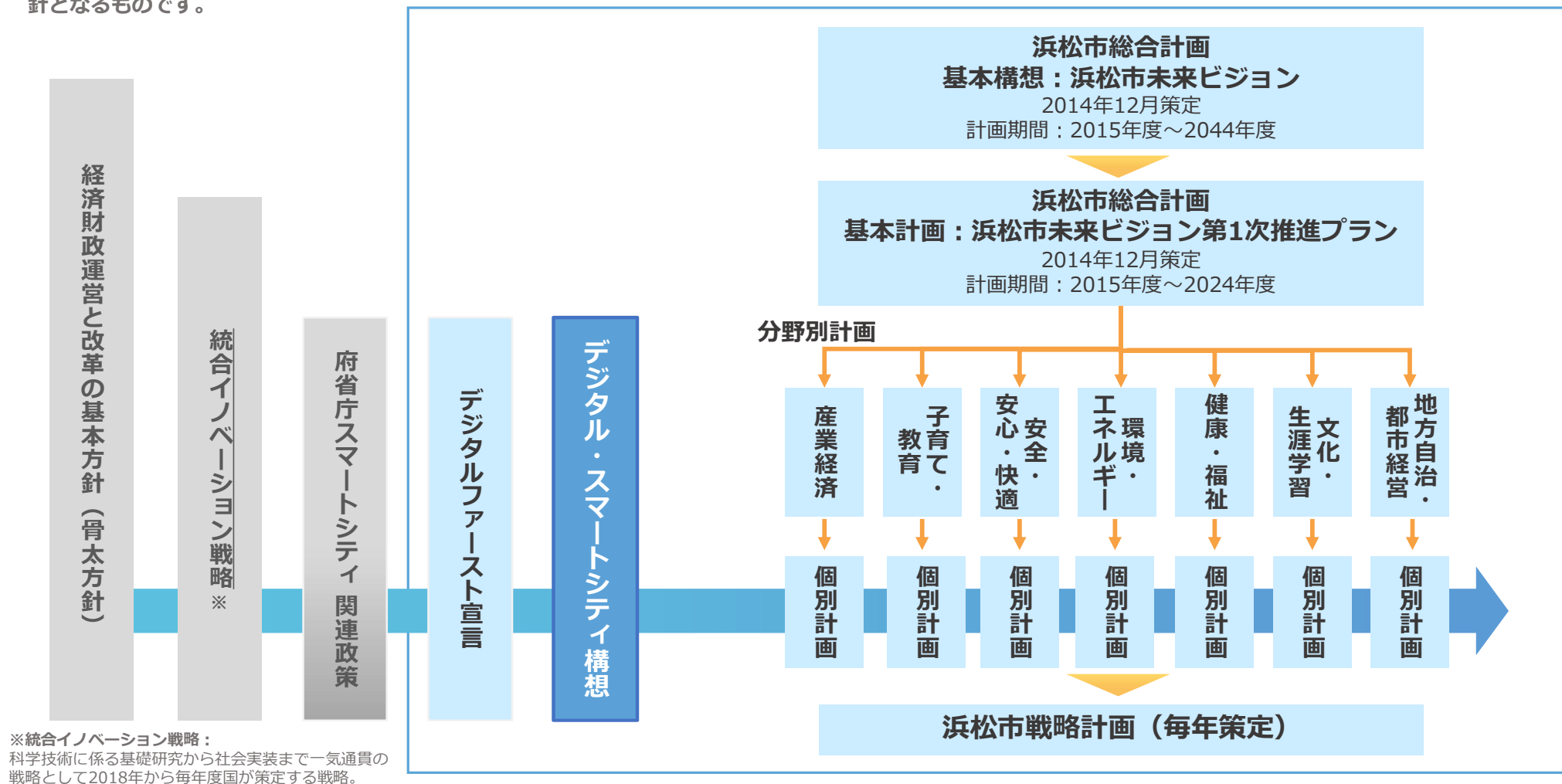
II 構想策定の趣旨／構想の位置付け

■ 構想策定の趣旨

「浜松市デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指します。

■ 構想の位置付け

「浜松市デジタル・スマートシティ構想」は、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画であるとともに、デジタル活用の観点から分野横断的な取組の指針となるものです。



将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoL（生活の質）の向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

キュー・オー・エル

「市民QoL（生活の質）※の向上」と「都市の最適化※」

※QoL：
「Quality of Life」の略。人々の幸福感など、
社会のゆたかさや生活の質のこと。

※都市の最適化：
都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・
効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。

【必要な視点（説明P6）】

必要な視点1 オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、
組織や分野等を超えた共創のまちづくりを
推進します。



必要な視点2 市民起点/サービスデザイン思考

デジタルは、「市民QoLの向上」「都市の最適
化」のための手段と捉え、“市民起点”の
まちづくりを推進します。



必要な視点3 アジャイル型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、
トライ&エラーを繰り返し、
変化に強いまちづくりを推進します。



【基本原則（説明P7）】

基本原則1
オープン/相互運用性

基本原則2
多様性/包摂性

基本原則3
透明性/プライバシー

基本原則4
持続可能性

基本原則5
安全・安心/強靭性

デジタルの力を最大限に活用し、「課題解決型のアプローチ」と、「未来に夢と希望を持てるチャレンジ」を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を共創します。

【文化・芸術】



デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

【健康・医療・福祉】



アイ・オー・ティ
遠隔医療やIoT※を活用した見守りでどこでも安心して生活。
エーアイ
AI（人工知能）がデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。

※IoT：「Internet of Things」の略。様々なモノが、インターネットを通じて相互に情報交換をする仕組み。

【教育】



世界の学校と繋がりオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。

【社会参加】



高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がり、それぞれの力を発揮。

【産業】



ドローンやロボットの活用で省化と生産性が向上。AIやビッグデータ※を駆使し、付加価値が向上した儲かる農林業が実現。

※ビッグデータ：

スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。

【移動・物流】



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェア（相乗り）や自動運転で自由にどこへでも移動。

【デジタルで“繋がる未来”のキーワード】

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワーク※や多拠点居住※の促進）

※リモートワーク：情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。

※多拠点居住：都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部で仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ。

【行政サービス】



スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュ（案内人）が対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。

【防災】



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がり安全安心な社会を実現。



※デジタル・スマートシティのイメージ図であり、都市構造を示すものではありません。

デジタル・スマートシティの推進にあたっては、以下の3つの視点で取り組みます。

視点1

オープン イノベーション



- 市民、NPO団体、企業、大学、行政など多様な主体が自律的に参画し、組織や分野を越えた共創のまちづくりを推進することで、イノベーション（革新的な技術や新たなサービス・仕組み）の創出を目指します。
- オープンであることや相互運用性等を大切にし、創発性の高い環境を構築します。

視点2

市民起点/ サービスデザイン 思考



- デジタル化を市民に強いたり、技術やソリューション※ありきではなく、デジタル活用はあくまで市民QoL向上や地域課題解決の手段と捉え、利用者の目線による“市民起点”のまちづくりを推進します。
※ソリューション：課題を解決することや、そのために提供されるシステム。
- サービスやソリューションの創出にあたっては、利用者目線で考える“サービスデザイン思考”で取り組みます。

視点3

アジャイル※型 まちづくり

※アジャイル：
【Agile】「俊敏な」「すばやい」
という意味の英単語。



- スモールスタート※で果敢にチャレンジし、実行・検証・改善を繰り返すことでニーズに合ったサービスやソリューションを創出します。
※スモールスタート：
新たな事業やプロジェクトを立ち上げる際に、最初は機能やサービスを限定するなどして小規模に展開させること。
- 環境変化のスピードが速い時代において、作りこみすぎないことや回遊性の担保などに配慮し、変化に強い、しなやかなまちづくりを推進します。
- 本市の目指す拠点ネットワーク型都市構造の実現にも貢献します。

官民共創やアジャイル型のまちづくりを支える共通のルールとして、以下の5つを基本原則としてデジタル・スマートシティを推進します。

1 オープン／相互運用性

- データを流通させることで新たな価値を生み、多様な主体が参加することでイノベーションを創発するため、オープンであること、そして、相互運用性が高いことを原則とします。
(オープンな議論の場、オープンデータ※、オープンソース※、標準API※、GitHub※等を活用したオープンな開発等を推奨)
- ※オープンデータ：官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易かつ無償で利用できるように、公開されたデータのこと。
※オープンソース：ソフトウェアのソースコード（ソフトの内容）を公開して、改良や再配布を認めるという考え方。
※API：外部のソフトウェアの機能を共有できる仕組み。
※GitHub：他の開発者と一緒にソフトウェアの開発等を行うことができるプラットフォーム。

2 多様性／包摂性

- デジタル化を人に強いるのではなく、あらゆる人の社会活動や都市運営をサポートするツールとして活用していきます。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、多様で包摂的な社会を目指します。
- 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的なインパクトを大切にしていきます。

3 透明性／プライバシー

- データの流通や活用には、信頼関係の構築が欠かせません。信頼関係の構築のため、透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組んでいきます。
 - 収集されたデータは、ダッシュボード※やBIツール※等を活用し、積極的に可視化していきます。また、データに基づく政策形成（EBPM）^{イービーピーエム}や合意形成などのまちづくりにも活用していきます。
- ※ダッシュボード、BIツール：データを統合、分析、可視化するソフトウェアやツールのこと。

4 持続可能性

- 新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、設計や実証実験の段階から、運用面、財政面において持続可能であることが重要であることを十分に認識し進めていきます。
- 財政的な負担においては、受益者を意識した設計を行うとともに、資金調達においては、既存の枠組みに捉われない持続可能な調達のあり方を検討していきます。

5 安全・安心／強靭性

- 自然災害やパンデミック（世界的大流行）、サイバー脅威（コンピュータシステムに対する電子的攻撃など）、その他トラブルによる障害が生じても最少限の都市機能を維持し、早急に復旧できるよう配慮した、システムや体制の構築に努めます。

IV 推進体制とエコシステム（好循環）/ロードマップ

「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」を中核に、官民共創でデジタル・スマートシティを推進し、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



■ 推進体制

- 官民連携プラットフォームは、各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ利活用を推進。
- 官民連携プラットフォームは、民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム（サービスの基盤をユーザーなどに提供する事業者）及びコーディネーターの機能を担う。



■ 目指すエコシステム（好循環）

- ベンチャー企業などから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実行・検証・改善を繰り返し、社会実装へと繋げる。

【市民】

市民は、実証実験への参加やサービスを選択するという間接的な参加やシビックテック※など直接的な参加を通じて「市民QoL向上」に貢献。

※シビックテック：シビック（Civic：市民）とテック（Tech：テクノロジー）をかけた造語。市民自身が、テクノロジーを活用して、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組みをいう。

【企業】

企業は、地域課題の解決に貢献することで新たなビジネスやイノベーションの創出の機会とする。

「国土縮図型都市・浜松」の多様な実証フィールドの活用



V 第一期（2020年度～2024年度）における重点分野の設定

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナ※のニューノーマル※や安全・安心への対応、③課題解決型のアプローチにより持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

※ウィズコロナ、ポストコロナ：新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからを指す。

※ニューノーマル：新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと。

①浜松の強みを 唯一無二のものに

- ウエルネス※
- 産業（ものづくり・農林業）
- 音楽文化・エンターテインメント
- 観光・商業

※ウエルネス：

幸福で充実した人生を送るために、毎日の生活を見直し、生活習慣を改善しようとする考え方、健康観。

②浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

- リモートワーク・多拠点居住
- 見守り・災害対応
- 教育・子育て
- デジタル・ガバメント（電子行政）

第一期

デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

③デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

- モビリティ（移動・物流）
- 社会参加促進
- インフラ（社会生活基盤）
- エネルギー・循環型社会

④共創の基盤を構築し より強固なものに

- 官民共創による推進体制の強化
- 人材育成
- データ連携基盤※の整備やオープンデータの拡充
- 通信基盤等の整備や利活用促進

※データ連携基盤：

複数のシステムに蓄積されたデータをつないで、各システム等で利用できるようにするための仕組みのこと。これにより1対1で結合されていたシステム・サービスの壁を越えて様々なデータを様々なシステム・サービスで利活用することが可能になる。

(1) 浜松の強みを唯一無二のものに

※番号を付した用語はP14～P15で説明

ウェルネス

背景：健康寿命3期連続日本一



- 「予防・健幸都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上



産業（ものづくり・農林業）

背景：世界的なものづくり企業の立地
スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市※1



- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス※2等を活用したベンチャー企業等の誘致
- 先端技術を活用するスマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT（情報技術）・IoT等の活用支援



音楽文化・エンターテインメント

背景：世界的な楽器メーカーの集積
ユネスコ創造都市（音楽分野）※3



- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進



観光・商業

背景：多様で豊かな観光資源や自然環境



- デジタル・マーケティング※4の活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口※5の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ（報奨、奨励）付与による誘客や消費活性化の研究



(2) 浜松らしいニューノーマル社会の実現を目指して

※番号を付した用語はP14～P15で説明

リモートワーク・多拠点居住

背景：リモートワークや多拠点居住等の需要の高まり



- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進【再掲】
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進【再掲】
- リモートワークやテレワーク※6の推進
- テレワークパーク構想※7の推進
- 副業・兼業人材の活用促進



見守り・災害対応

背景：安全・安心な生活の追及



- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策



教育・子育て

背景：子育て世代を全力で応援するまち



- ^{ギガ}OGIGAスクール構想※8の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッド（組み合わせ）による持続可能な教育の推進
- OICT（情報通信技術）等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築



デジタル・ガバメント

背景：コロナ禍におけるオンライン化等のニーズの高まり



- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進と
マイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- ODX推進に向けた職員の人材育成



(3) デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

※番号を付した用語はP14～P15で説明

モビリティ

背景：人口減少による公共交通や各種サービスの持続困難
交通事故ワースト1、渋滞の改善や周遊性の向上



- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療^{マース}MaaS※9の推進
- フードデリバリープラットフォーム※10の推進
- テレワークパーク構想の推進【再掲】



社会参加促進

背景：多様で包摂的な社会構築の要請



- OAIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティ※11の向上
- ICT技術やSNS^{エスエヌエス}※12等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマートフォン講座等の充実



インフラ

背景：全国で2番目に広い市域とインフラの老朽化



- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データ※13などインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討



エネルギー・循環型社会

背景：再生可能エネルギー導入容量 日本一
環境と共生した持続可能な社会実現の要請



- 「浜松市域“RE100”※14^{アールイー}」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ※15、スマートタウン※16のモデルの構築
- スマートプロジェクト※17の実現
- 新清掃工場及び新破砕処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミー※18の推進



(4) 共創の基盤を構築し、より強固なものに

※番号を付した用語はP14～P15で説明

官民共創による推進体制の強化

背景：官民連携の中核となるプラットフォームの設立



- 浜松市フェロー※19等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン※20等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創



人材育成

背景：DX推進を担う人材の確保や育成の必要性の高まり



- 次代を担う若者の育成
- データ利活用に関するセミナーやハッカソン※21等の開催
- シニア向けスマートフォン講座等の充実【再掲】
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan※22等との連携



データ連携基盤の整備やオープンデータの拡充

背景：分野横断のデータ利活用による地域課題の解決を目指すまちづくりの推進



- データ流通のハブ（中継地）となるデータ連携基盤と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（「ORI-Project」※23の推進）
オリ・プロジェクト
- オープンデータプラットフォーム（ODPF）の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進



通信基盤等の整備や利活用促進

背景：デジタル時代のインフラとしての通信基盤のニーズの高まり



- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5G※24アンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ



※1	スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市	内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定
※2	サテライトオフィス	企業や団体の本社・本拠から離れた場所に設置されたオフィスのこと。
※3	ユネスコ創造都市 (音楽分野)	文学、映画、音楽、クラフト&フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化の分野において世界でも特色ある都市を認定する事業として、2004年にユネスコ創造都市ネットワークが創設された。浜松市は、2014年12月に音楽分野での加盟が認定された。
※4	デジタル・マーケティング	インターネットやIT技術など「デジタル」を活用したマーケティング手法のこと。 ビッグデータ技術やAIなどを活用して顧客の嗜好や行動を分析し、隠れたニーズやトレンドまでを考慮して行われる。
※5	関係人口	特定の地域と多様に関わる人々のこと。
※6	テレワーク	情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。
※7	テレワークパーク構想	車や駐車場を活用することでより良いテレワーク環境をつくり、浜松市をあげてテレワークを促進していくために「浜松テレワークパーク実現委員会」により発案された構想。
※8	ギガ GIGAスクール構想	文部科学省が提唱する構想。一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、子供の資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとしている。
※9	マース MaaS	「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索・予約・決済を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。
※10	フードデリバリープラットフォーム	飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配送までを一元管理する仕組み。 浜松市内ではFoodelixというプラットフォームが構築されている。
※11	アクセシビリティ	【accessibility】近づきやすさ、利用しやすさ、などの意味を持つ英単語で、ITの分野では機器やソフトウェア、システム、情報などが身体の状態や能力の違いによらず様々な人から同じように利用できる状態やその度合いのことを指す。
※12	エスエヌエス SNS	「Social Networking Service」の略。人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供するオンラインサービス。

※13	点群データ	点の集合によって物体の構造などを表現するデータ。
※14	アールイー 浜松市域“RE100”	市内の総消費電力に相当する電気を、市内の再生可能エネルギーで生み出すことができる状態（RE100の考え方を参考に市独自に定義したもの）。RE100：使用する電力の100%を再生可能エネルギーにより発電された電力にすることに取り組んでいる企業が加盟している国際的な企業連合。
※15	スマートコミュニティ	再生可能エネルギーや蓄電池等の様々なエネルギー設備とエネルギーマネジメントシステム（CEMS）が導入された施設などが集合した街区であり、電力に加え、熱や水等の生活インフラも最適制御された社会（街区）。次世代エネルギー・社会システムとして注目されている。
※16	スマートタウン	住宅・都市開発において、環境負荷の低減と暮らしの質の向上を目指した持続可能なまちのこと。
※17	スマートプロジェクト	本市のエネルギー分野における「エネルギー・スマートシティ（エネルギーに対する不安のない強靱で低炭素な社会）」の実現に向けたプロジェクト。
※18	サーキュラーエコノミー	「循環経済」のことで、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」の「線形経済」に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を指す。
※19	浜松市フェロー	デジタル技術、データ活用、デジタルマーケティングその他のデジタル・スマートシティに関する専門的知識、経験等を有する者のうち、本市のデジタル・スマートシティ推進に関して、専門的立場から支援、助言を行う者。
※20	アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントのこと。
※21	ハッカソン	「ハック（プログラムの改良）」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ソフトウェア開発に関わる人々が集まって、集中的にプログラムやサービスの開発を行うイベントのこと。
※22	コード・フォー・ジャパン Code for Japan	「ともに考え、ともにつくる」をコンセプトに、民間と行政が共に技術活用をしながら課題解決を行っていく場づくりを行う非営利団体。2013年10月25日設立。
※23	オリ・プロジェクト ORI-Project	「Hamamatsu Open Regional Innovation Projectの略称。ORIと織(おり)をかけ、遠州織物をはじめとした繊維の街・浜松で、糸を紡ぐように官民が連携し新たなイノベーションを起こすことを目指す
※24	ファイブ・ジー 5G	第5世代移動通信システムのこと。超高速通信や、多数の機器が同時にネットワークに繋がる「多数接続通信」、遠隔地でもロボット等の操作をスムーズに行える「超低遅延通信」が可能になる予定。

策 定 : 2021(令和3)年3月

浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部

T E L 053-457-2454

E-mail dsc@city.hamamatsu.shizuoka.jp

